

特別活動の評価様式に関する調査研究 (2) —埼玉県各教育事務所管内およびさいたま市の 公立小学校通信簿の分析から—

高橋 克已*・綾 牧子**

A Study of Ways to Evaluate Extracurricular Activities (2): Based on an Analysis of Report Cards Issued by Elementary Schools in Saitama Prefecture

Katsumi TAKAHASHI, Makiko AYA

要旨 本稿は、埼玉県内公立小学校の通信簿において、特別活動の評価様式がどのように設定されているかを報告するものである。特別活動に関する独立した評価欄の有無とタイトル名、特別活動事実欄の有無およびその実態、特別活動所見欄の有無およびその実態、そして特別活動状況欄の実態、の四つについて、1-3年・4-6年ごとに詳細な比率を報告している。

キーワード：特別活動 評価様式 通信簿 指導要録 委員会活動・クラブ活動

1. はじめに

本稿は、埼玉県内の公立小学校の「通信簿」(さまざまな名称があるが、以下、通信簿とする)において、特別活動に関する評価項目がどのように設定されているかを調べようとするものであり、本紀要第45集において報告した「特別活動の評価様式に関する調査研究(1) - 埼玉県西部・南部教育事務所管内の小学校通信簿の分析から -」(高橋・綾, 2011)の続編である。

もちろん、通信簿に関する調査資料が従来まったく存在しなかったわけではない。国立教育政策研究所は、2003年5月『通信簿に関する調査研究』をまとめている。この研究では、日本全国から集

めた通信簿を、各教科、行動の記録、特別活動の記録などの項目別に調べ、代表的なパターンをそれぞれいくつか抽出している。ただ、特別活動の評価様式がどうなっているか、一定の分類枠組みを設定して数値を示すという事は行われていない。

そこで本稿は、埼玉県という限られた地域ではあるものの、その地域において特別活動の評価様式がどうなっているかを可能な限り厳密に類型化し、資料として活用できるよう意図した。前回の報告においては、副題に示すとおり、西部・南部教育事務所管内の小学校に限っていたが、今回はすべての教育事務所およびさいたま市、すなわち埼玉県内の公立学校全体を対象としている(入手できた範囲ではあるが)。

なお、調査の意図と方法に関する詳細は、前回の報告に詳述したので、省略させていただく。

(高橋)

*たかはし かつみ 文教大学教育学部教職課程

**あや まきこ 彰栄保育福祉専門学校

2. 特別活動の評価に関わる独立欄の有無とそのタイトル

まず、特活独立欄の有無とそのタイトル名について、埼玉県全体（1－3年生）（4－6年生）、およびそのグラフを紹介する。

表1 埼玉全1－3年特活評価欄のタイトル名

	1年生 実数	%	2年生 実数	%	3年生 実数	%	実数 平均	1-3年 %平均
「特別活動の記録」等	90	34.5%	89	34.4%	89	34.9%	89.3	34.6%
「特別活動等の記録」等	12	4.6%	13	5.0%	10	3.9%	11.7	4.5%
「特別活動の様子」等	53	20.3%	56	21.6%	52	20.4%	53.7	20.8%
「特別活動」等	20	7.7%	21	8.1%	21	8.2%	20.7	8.0%
その他	10	3.8%	10	3.9%	11	4.3%	10.3	4.0%
タイトルなし	6	2.3%	6	2.3%	6	2.4%	6.0	2.3%
特活独立欄なし（総合所見欄等）にあり	15	5.7%	13	5.0%	14	5.5%	14.0	5.4%
特活独立欄なし（まったくなし）	55	21.1%	51	19.7%	52	20.4%	52.7	20.4%
	261	100%	259	100%	255	100%	258.3	100%

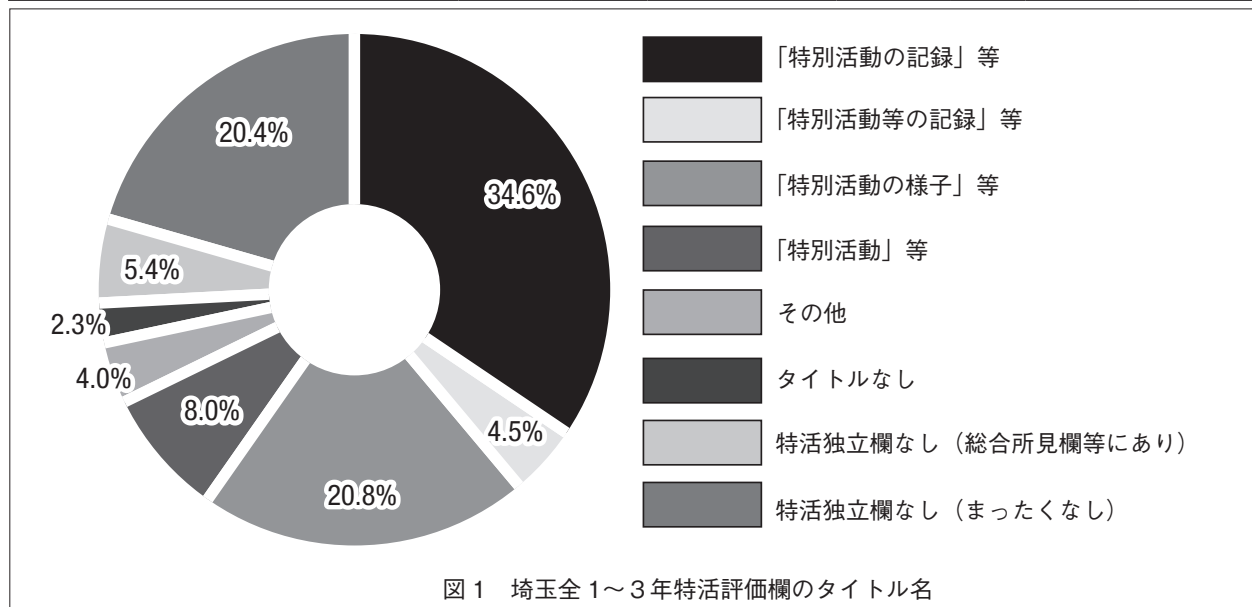
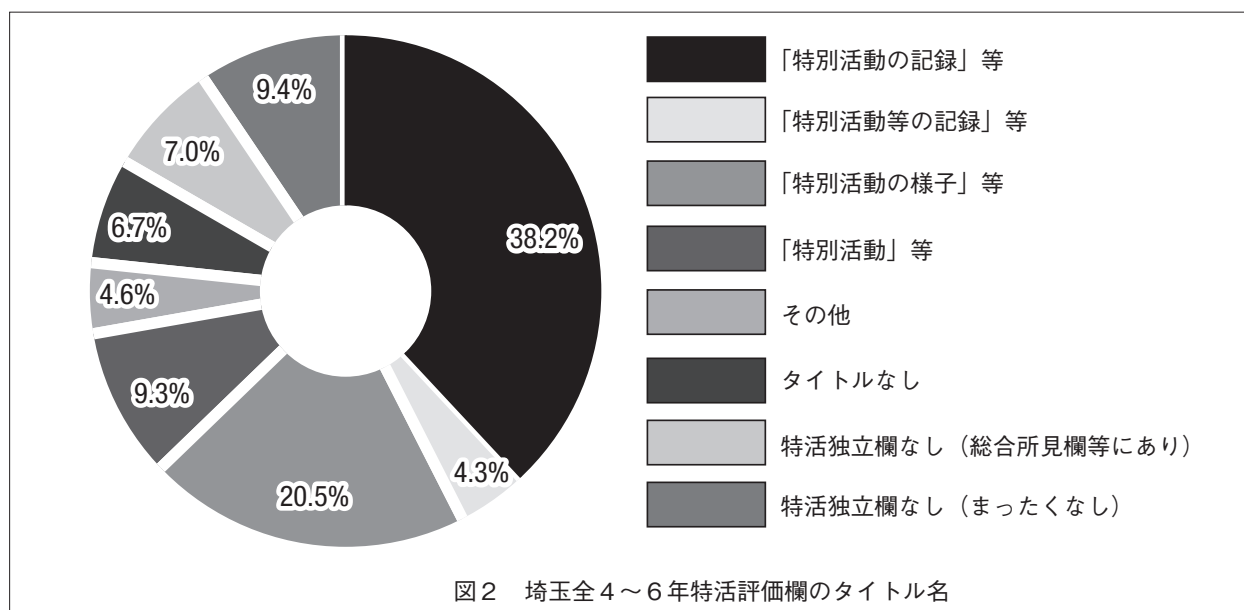


表2 埼玉全4－6年特活評価欄のタイトル名

	4年生 実数	%	5年生 実数	%	6年生 実数	%	実数 平均	4-6年 %平均
「特別活動の記録」等	101	38.3%	104	38.8%	113	37.7%	106.0	38.2%
「特別活動等の記録」等	12	4.5%	10	3.7%	14	4.7%	12.0	4.3%
「特別活動の様子」等	53	20.1%	55	20.5%	63	21.0%	57.0	20.5%
「特別活動」等	25	9.5%	25	9.3%	27	9.0%	25.7	9.3%
その他	12	4.5%	13	4.9%	13	4.3%	12.7	4.6%
タイトルなし	17	6.4%	18	6.7%	21	7.0%	18.7	6.7%
特活独立欄なし（総合所見欄等）にあり	19	7.2%	18	6.7%	21	7.0%	19.3	7.0%
特活独立欄なし（まったくなし）	25	9.5%	25	9.3%	28	9.3%	26.0	9.4%
	264	100%	268	100%	300	100%	277.3	100%



知見1 (全体傾向および学年差)

特別活動について記述する何らかの欄が存在する場合はほとんどであり、低学年で約8割、高学年で約9割強にのぼっている。低学年で「特活独立欄なし（まったくなし）」が若干多い理由としては、低学年ではクラブ活動も委員会活動もないため、独立欄を設けず総合所見欄に含めて総合的な所見として記述する形式をとっているためと考えられる。

また、低学年、高学年ともに、概して指導要録に準じて「特別活動の記録（きろく）」等、のタイトルがつけられている場合が最も多く（4割弱）、次に多いのが「特別活動の様子（ようす）」等となっている（約2割）。

知見2 (地域差)

本来、地域差を論じるためには、教育事務所ごとの集計結果の表およびグラフを提示しなければならない。今回、その作業は行い、学会発表でも報告したが（高橋，2014）、本稿では紙幅の関係上省略させていただき、知見のみ簡潔に報告する。

まず、地域差はかなり大きなものである。低学年では、独立欄が存在しない学校も珍しくなく、特に西部と南部で顕著である。西部の低学年では45.7%と半数近くに及んでいる。南部の低学年では、28.9%となっている。

また北部では「特別活動の様子（ようす）」というタイトルが、過半数に及んでいる。逆に秩父では、要録に準じた「特別活動の記録（きろく）」が圧倒的に多い（特に高学年では6割以上）。

（綾）

3. 事実欄の評価様式

続いて、事実欄の評価様式について、埼玉県全体（1-3年生）（4-6年生）、およびそのグラフを紹介する。

表3 埼玉全1-3年特活事実欄の様式

	1年生 実数	%	2年生 実数	%	3年生 実数	%	実数 平均	1-3年 %平均
「委員会・クラブ（学年ごと）」	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
「係など（学期ごと）」	99	37.9%	101	39.0%	97	38.0%	99.0	38.3%
その他	5	1.9%	5	1.9%	7	2.7%	5.7	2.2%
特活独立欄はあるが特活事実欄はなし	87	33.3%	89	34.4%	85	33.3%	87.0	33.7%
特活独立欄なし（総合所見欄等にあり）	15	5.7%	13	5.0%	13	5.1%	13.7	5.3%
特活独立欄なし（まったくなし）	55	21.1%	51	19.7%	53	20.8%	53.0	20.5%
	261	100%	259	100%	255	100%	258.3	100%

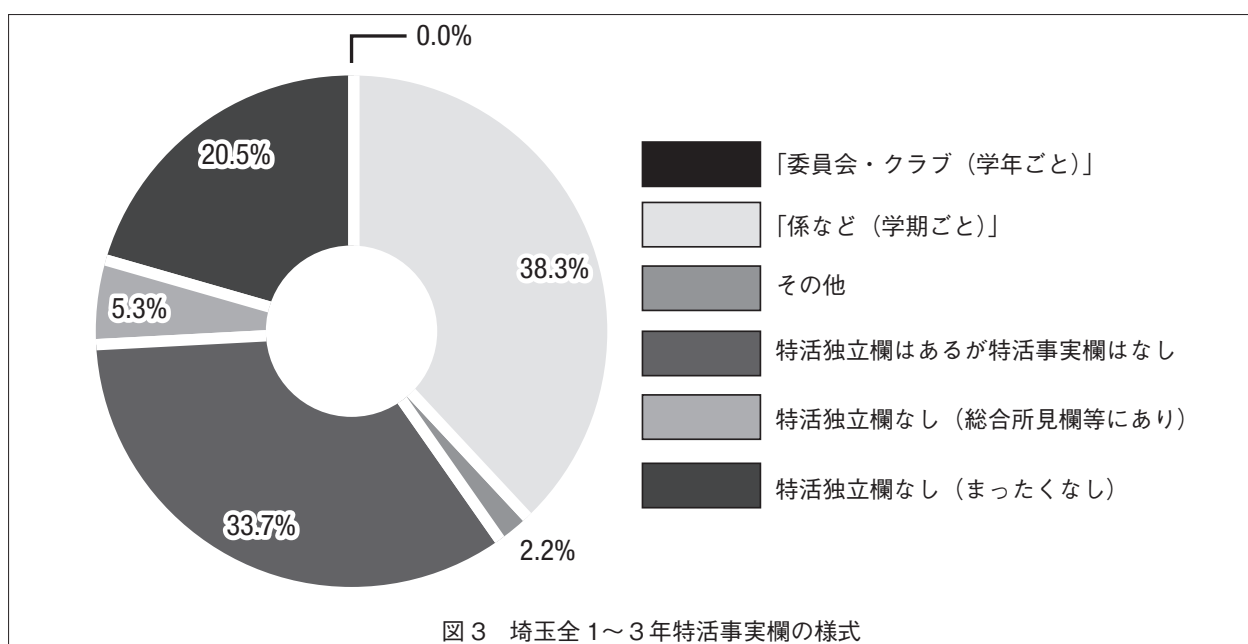
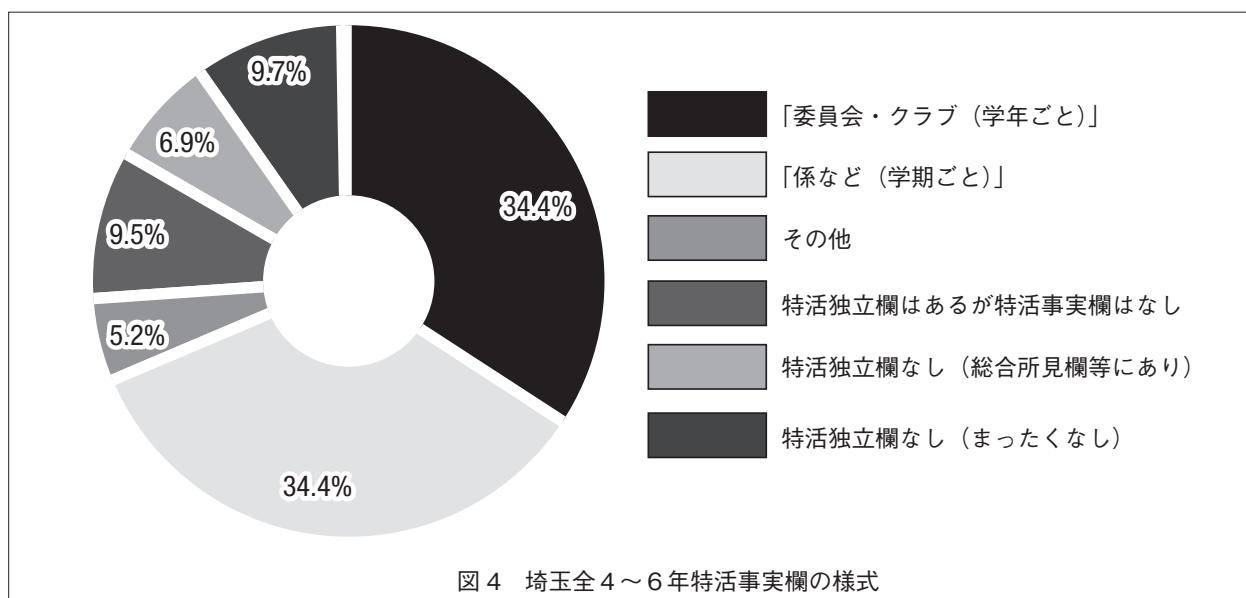


表4 埼玉全4-6年特活事実欄の様式

	4年生 実数	%	5年生 実数	%	6年生 実数	%	実数 平均	4-6年 %平均
「委員会・クラブ（学年ごと）」	86	32.6%	96	35.8%	104	34.7%	95.3	34.4%
「委員会・クラブ（学年ごと）、係など（学期ごと）」	91	34.5%	91	34.0%	104	34.7%	95.3	34.4%
その他	14	5.3%	13	4.9%	16	5.3%	14.3	5.2%
特活独立欄はあるが特活事実欄はなし	29	11.0%	23	8.6%	27	9.0%	26.3	9.5%
独立欄なし（総合所見欄等にあり）」	18	6.8%	19	7.1%	20	6.7%	19.0	6.9%
特活独立欄なし（まったくなし）」	26	9.8%	26	9.7%	29	9.7%	27.0	9.7%
	264	100%	268	100%	300	100%	277.3	100%



知見 3（全体傾向および学年差）

事実欄では、1～3年と4～6年の違いが顕著に表れる。低学年ではクラブ活動と委員会活動がないため、この欄に書くことは「係など」しかなく、そのためにわざわざ独立欄を設ける必要がないためであろう。

知見 4（地域差）

ここでは地域差が見られるものの、大まかな特徴では共通点が目立つと言える。低学年では、係活動を書く欄があるか、もしくは事実欄がなく所見欄のみという二つのパターンで大半を占める点はほぼ共通している。（ただし、西部と南部では「まったくなし」もかなり多い）。高学年では、クラブ・委員会の欄、もしくはそれにプラスして係活動を書くという二つのパターンで大半を占める点は共通する。

ただし、その割合が地域により異なる。特徴的なのは、北部とさいたま市では係活動を記述する学校が際立って多いことである。

（高橋）

4. 所見欄の評価様式

続いて、所見欄の評価様式について、埼玉県全体（1－3年生）（4－6年生）、およびそのグラフを紹介する。

表5 埼玉全1－3年特活所見欄の様式

	1年生 実数	%	2年生 実数	%	3年生 実数	%	実数 平均	1-3年 % 平均
学期ごとの特活所見欄	152	58.2%	157	60.6%	147	57.6%	152.0	58.8%
その他	2	0.8%	1	0.4%	3	1.2%	2.0	0.8%
特活独立欄はあるが特活所見欄はなし	37	14.2%	37	14.3%	39	15.3%	37.7	14.6%
特活独立欄なし（総合所見欄等にあり）	14	5.4%	12	4.6%	8	3.1%	11.3	4.4%
特活独立欄なし（まったくなし）	56	21.5%	52	20.1%	58	22.7%	55.3	21.4%
	261	100%	259	100%	255	100%	258.3	100%

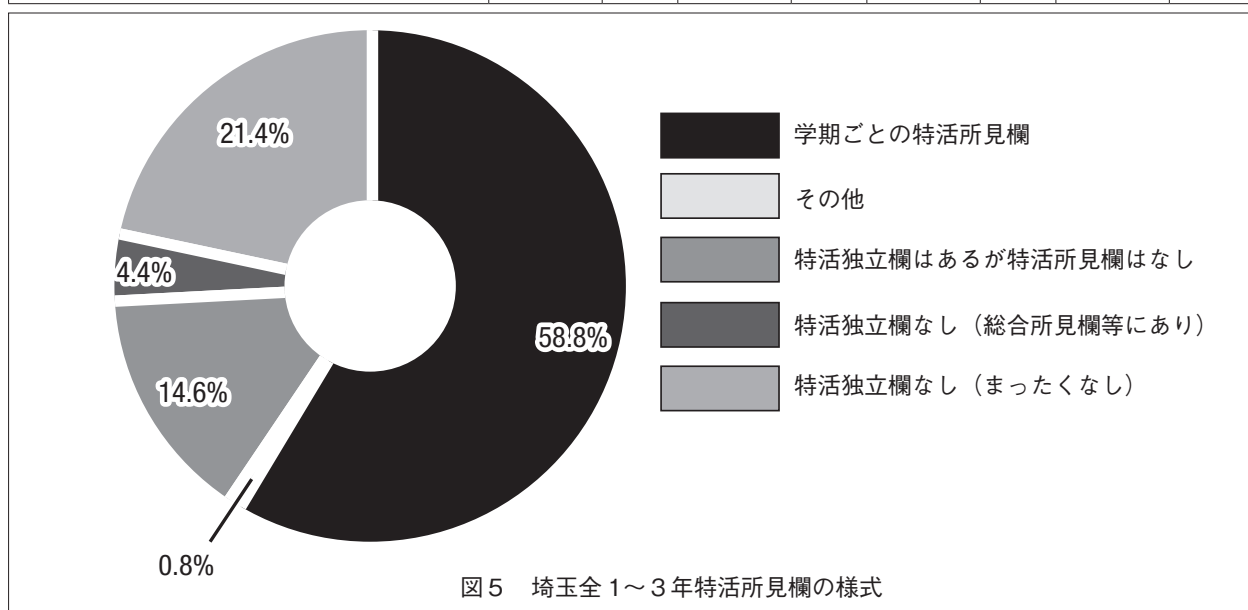
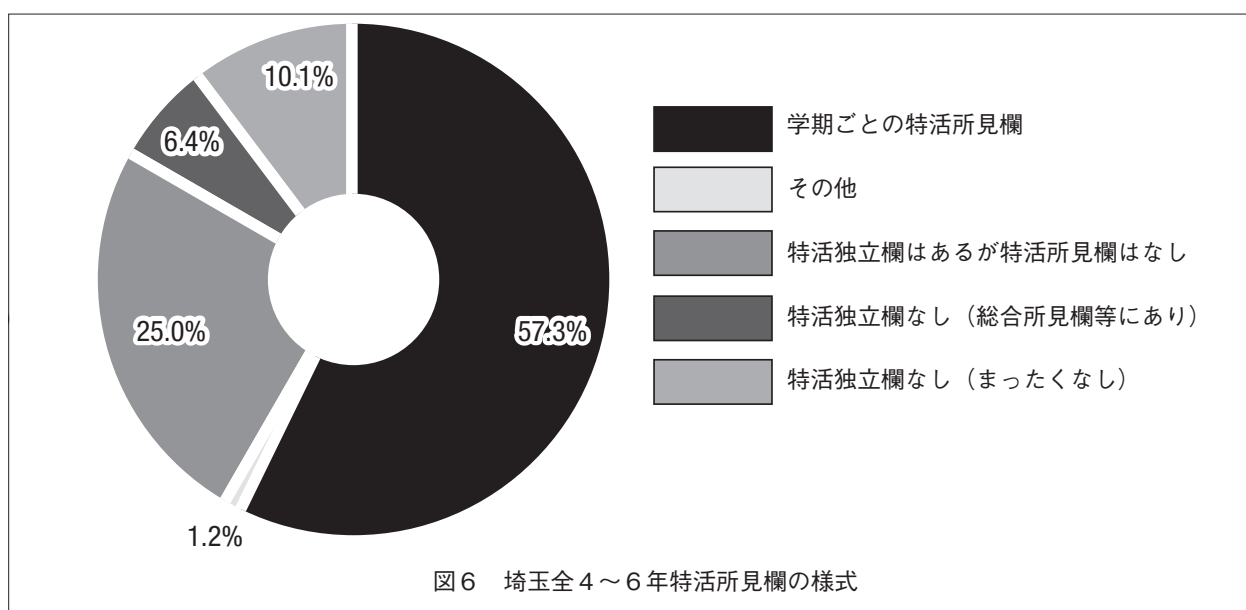


表6 埼玉全4－6年特活所見欄の様式

	4年生 実数	%	5年生 実数	%	6年生 実数	%	実数 平均	4-6年 % 平均
学期ごとの特活所見欄	153	58.0%	150	56.0%	174	58.0%	159.0	57.3%
その他	3	1.1%	4	1.5%	3	1.0%	3.3	1.2%
特活独立欄はあるが特活所見欄はなし	64	24.2%	70	26.1%	74	24.7%	69.3	25.0%
特活独立欄なし（総合所見欄等にあり）	18	6.8%	17	6.3%	18	6.0%	17.7	6.4%
特活独立欄なし（まったくなし）	26	9.8%	27	10.1%	31	10.3%	28.0	10.1%
	264	100%	268	100%	300	100%	277.3	100%



知見5（全体傾向および学年差）

所見欄について言えば、学年別の違いはあまりない。どちらも約6割の学校で、特活専用の所見欄がある。

知見6（地域差）

埼玉県全体でみれば、約6割の学校で特活専用の所見欄があるのだが、西部と北部ではやや少なめ（特に西部は三分の一にも満たない）で、逆に東部とさいたま市では非常に多い（どちらも約8割）。（綾）

5. 状況欄について

上記集計では扱ってこなかったが、実は、特別活動の評価において、最も物議を醸すのは、状況欄であろう。指導要録の参考様式には存在するが、通信簿にはない場合が多いことがそれを物語っている。領域別に○か空欄と記載する事実上の二段階評価である。テストもなく、広範囲に及ぶ特別

活動を二段階評価することは難しく、特に絶対評価導入後、問題とされてきた。ただし、特別活動の状況欄がない通信簿が多いといっても、実は若干の学校には存在する。その実態を紹介しよう。

まずその数であるが、今回収集できた317校の通信簿のうち、状況欄が存在したのは、22校（約7%）のみであった。ただし、地域的に偏りがあり、西部、南部、秩父には見当たらず、さいたま市13、北部5（熊谷2・深谷2・本庄1）、東部4（久喜3・白岡1）であった。つまり、約7%の学校で通信簿に状況欄があるといっても、特定の市町村に偏っており、それらの市町村では、それなりに申し合わせたりして足並みをそろえている可能性も推測される。一般的には「珍しい」と表現できるのではないか。

いくつの項目を何段階で評価しているだろうか。以下に、5・6年生の場合を一覧表で紹介する。（学校名を伏せ、1校、2校・・・と番号をふってある）

表7 特活状況欄における項目数と評価段階

	学級活動	クラブ活動	児童会活動	学校行事	項目数の合計	評価方法	評価段階
さいたま市							
1校	1	1	1	1	4	満足できるものだけに○	2
2校	1	1	1	1	4	満足できるものだけに○	2
3校	1			1	2	よく取り組めたら○印	2
4校	1	1	1	1	4	「○・・・よくできました」	2
5校	1	1	1	1	4	満足できるものに○	2
6校	3	1	1		5	○…よい 空欄…ふつう △…努力しましょう	3
7校	1	1	1	1	4	満足できるものに○	2
8校	1	1	1	1	4	十分満足できるに○印	2
9校	1	1	1	1	4	十分できているに○	2
10校	1	1	1	1	4	○印は、特によく活動できたもの	2
11校	1	1	1	1	4	○印は満足できるもの	2
12校	1	1	1	1	4	○印は満足できるもの	2
13校	1	1	1		3	○印は満足できるもの	2
北部							
1校	1	1	1	1	4	満足できる場合に○印	2
2校	1		1	1	3	活動のめあて（観点）あり、「よくできる◎ できる○ がんばろう△」に「表彰、委員会、クラブ等の記録」欄あり	3
3校	2	1	1	1	5	状況欄（クラブ活動・委員会活動・話し合い活動・係り活動・集会活動）は、◎○△の三段階で評価	3
4校	1	1	1		3	めあて達成の時は○ 6年：状況欄（学級活動2項目・児童会活動・クラブ活動）は、めあて達成の時は○	2
5校	1	1	1		3	○…よくやっている 空欄…特に目立った行動がなかった場合 6年：状況欄（学級活動2項目・児童会活動・クラブ活動）	2
東部							
1校	1	1	1		3	満足できる～○印	2
2校	1	1	1	1	4	○印～よくできる	2
3校	1	1	1	1	4	○・・・よくできる	2
4校	1	1	1	1	4	○・・・進んで取り組んでいる	2

項目数は、要録通りに4項目としている学校が多いが、学級活動をさらに細かく分けたり、逆にクラブ活動や学校行事をカットしている学校もある。している学校が多いが、「◎○△」等三段階としている学校もごくわずかある（3校のみ）。（高橋・綾）

評価段階は、要録通りに○か空欄の二段階とし

6. 結びにかえて

今回の作業を通じて、各学校の通信簿において特別活動の評価する様式の多様性に改めて驚かされた。その「分類枠組み」を提示しえたことは、有意義であったと自負している。

今回提示した分類枠組みの特徴は、以下の三点である。

- ① 1 - 3年生, 4 - 6年生でまとめたこと。
- ② 指導要録の様式を参考に、独立欄の有無をはじめ、事実欄、所見欄、状況欄の三タイプ毎、全体を俯瞰し、操作的にいくつかの分類を設定したこと。とりあえず当てはめきることができた。
- ③ 地域差を見るために、事務所単位の集計をしたこと。

問題点としては、次の三点が挙げられる。

- ① 3年生と4年生の扱いの難しさ。低中高学年用と三タイプの通信簿書式にしている学校もいくつか見られた。しかし、5 - 6年にはクラブ・委員会が両方ありまとめるのに問題は無いが、4年生には委員会がなく、3年生にはクラブも委員会もない。より正確には、1 - 3年, 4年, 5 - 6年, の三分類とするのが良かったかも知れないが、複雑になる。
- ② 操作的分類の強引さ。実際には事実欄か所見欄か区別が難しい場合が多い。今回は、二行以上の欄は所見欄としたがやや疑問も残る。
- ③ 事務所単位の地域差は確かにみられたが、その差は事務所単位というより、市町村単位によると思われる。しかし、市町村単位の集計ではあまりに煩雑に過ぎる。

なお、事務所単位での地域比較については、前回に引き続き、今回もまた力及ばなかった。ただ、事務所単位毎に集計表を作成し、グラフ化する作業は行い、日本学校教育学会第29回研究大会（仙台大学）において発表した。詳細は、当日配付資料を参照されたい。（高橋・綾）

[参考文献]

- 文教大学教育学部教職課程高橋研究室『埼玉県公立小学校通信簿における特別活動の評価様式～西部・南部5・6年向け通信簿の分析～』（教育学部共同研究による未公開内部資料）2011年
- 中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）』2008年
- 国立教育政策研究所『通信簿に関する調査研究』2003年
- 文部科学省初等中等教育局長『小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）』2010年
- 高橋克己「特別活動の評価に関する事例研究」（日本学校教育学会第29回研究大会（仙台大学）当日配付資料）2014年8月10日
- 高橋克己・綾牧子「特別活動の評価様式に関する調査研究（1）—埼玉県西部・南部教育事務所管内の小学校通信簿の分析から—」『文教大学教育学部紀要』第45集，2011年

（本研究は、本学教育学部共同研究費によって行われた。また、通信簿の収集にご理解・ご協力頂いた学校に深く感謝する次第である。）

